

## 学校経営推進費 評価報告書（1年目）

標記について、下記のとおり提出します。

## 1. 事業計画の概要

実施課程名	全日制の課程
取り組む課題	英語教育の充実
評価指標	・多読・多聴活動における語数の増加 ・英語学力調査のスコアの向上（平成29年度に平均440以上、グレード5以上の生徒数30名以上）
計画名	「英語多読・多聴ステーション」を核にした英語力向上プロジェクト ・ ・ ・ 中堅校における生徒の英語力向上、教員の授業力向上、英語指導方法のモデル的改革をめざして

## 2. 事業目標及び本年度の取組み

学校経営計画の 中期的目標	1 学力向上と進路実現 (1) イ 学習ニーズの多様化をふまえた選択科目の充実をはかり、生徒の能力・適性、興味・関心、進路希望に応じて学習できる教育活動の展開に努める。 (3) 生徒の進路希望を実現させる。 ア 授業の充実の他、講習・ガイダンスの充実等をはかるとともに、25年度より導入した英語学力調査を指標として、入試結果の実績維持・伸長をめざす。
事業目標	1 生徒 ・授業内・授業外における英語力のアップ ・英語を英語のまま理解できる基礎力づくり ・卒業までに30万語読破を目標とし、日常的に英語を読むことへの動機付けをすることで、自律学習へ導き、英語運用能力の向上をめざす。 2 教員 ・多読多聴を取り入れた授業力の向上と、多読多聴の外部への普及展開を図る。 以上を目標に、授業内においては展開教室と図書室、授業外においては図書室を「多読ステーション」として位置づけ、生徒に多読環境を与える。また教員の授業力向上をめざし、「多読ステーション」を中心とした講習会等を開催する。さらにこの成果を踏まえ、他の府立高校や周辺小中学校等の英語の教員や指導者への普及を図る。
整備した 設備・物品(数量)	多読図書 1996冊、朗読用CD 23枚、ラック 6台、ボックスファイル 32個、ポータブルCDプレイヤー 10台、充電器セット 5台
取組みの 主担・実施者	・英語担当者 ・図書担当者 ・教職員・PTA等有志
本年度の 取組内容	・1・2年全クラス（17クラス）授業内で週1回20分間多読活動を実施。CDプレイヤー、音声CDを利用して聴き読みも同時に実施（多聴活動）。生徒各自による読書記録をつける。毎学期ブックレポートを作成。 ・講習等での生徒への貸し出し ・中学生向けオープンスクールでの多読体験 ・多読に関する講演会の実施。多読実践校への訪問、調査・研究。
成果の検証方法 と評価指標	①GTECのスコアの伸び（各学年平均が1年推移で15ポイント以上の伸び） ②総語数の伸び（経年の比較で1人平均1万語増） ③読書速度と理解度の向上（1回20分あたりの読書語数の2割増） ④講習会等の外部発信回数と参加者数の推移
自己評価	※（記号説明）大きく上回った（◎）、上回った（○）、達成できず（△）、実施できず（×） ①GTEC（2回実施）トータルスコア 1年355.7→357.4 2年380.6→400.5 リーディング 1年129.3→130.1 2年142.2→148.5 リスニング 1年127.9→135 2年135.6→150.7 ライティング 1年98→92.4 2年102.7→106.1 多読活動を取り入れることで、大量のインプットを行う機会を持つことにより、理解だけではなくライティングの向上にもつながっていると考えられる。（○） ②多読本 読書総語数 平均1年23914語 2年26930語 1冊あたりの語数平均 1年220語 2年865語 1年は当初は1冊あたりの語数が少ないものから読んでいくため、1冊の語数平均が少なくなっている。2年では多聴活動をする生徒も多くなり、本によっては音声の速さや効果音なども違うため、語数としては増えなかった生徒もいる。選書に迷う生徒もみられ、そういう生徒には教員側から積極的に各生徒にあった本を勧めることが必要である。3学期2年講習参加者（10名）へ週末貸し出しを3学期に行った。（○） ③ ①のGTECスコアのリーディング、リスニングのスコアの変化から、読書速度や理解度は身につけてきている者もいるが、全体的には読書量・時間も不足しており、多読活動の効果が十分あらわれているとは言えない。（○） ④中学生向けオープンスクールでは生徒12名保護者1名の参加で多読体験を行った。校内において多読に関する講演会を実施した（2月19日）。他の府立高校から17名の参加があり、講演会を通して多読に関する理解を深め、情報交換をすることができた。（○）
次年度に向けて	・授業における多読活動を本年度よりもさらに充実したものにする。 ・週末の本の貸し出しや、授業外での読書会、長期休暇中の集中多読会等を実施し、授業外での読書機会を生徒が持てるようにする。 ・授業内多読活動では、本のレベルをあまり上げずにやさしめの本を多量に読むよう勧め、結果として読んだ語数を伸ばせるようにする。 ・音声とともに読む「聴き読み」を授業で広め、一定のスピードで読み続けることに抵抗を少なくするようにする。 ・生徒が読んだ本の感想なども利用して多読本の紹介を定期的に行ない、授業内多読を活発にするとともに、貸し出し数を伸ばす。 ・多読に関する講演会（ワークショップ）を実施し、効果的な多読活動についての教員自身が理解を深め、多読に興味・関心を持つ教員を増やす。